



# 冒険と恋と神戸

■ ゲスト＝鹿島郁夫 ■ きき手＝足立巻一

☆次は海底探険による

世界一周旅行

足立 ご苦労さまでした。太平洋横断、大変だったですね。横浜と神戸に二回入港され、歓迎されましたけどその印象はどうでした？

鹿島 やはり、神戸は長い間住んだ自分の生まれ故郷ですから。それに、横浜では、迎えてくれた人々がほとんど報道陣なんです。こちらは市民の方たちが迎えて下さった。それだけに感じがちがいますね。やはり、神戸に帰ってきたんだとホッとした気持ちになります。足立 そうでしょうね。まだ、疲れがぬけきらないと思うのですが、幾晩ぐらい寝たら、疲れはとれるもんですか？

鹿島 一晩寝たら、とれるんじゃないですか（笑）

足立 新聞にでいましたけど、次は東南アジアですね。

鹿島 これで完全に世界一周になります。大きな船で、四、五人でいくわけですけど、東南アジア―インド洋―紅海―地中海―大西洋―西インド諸島……と全部の海域になりますね。そして海底の仕事します。船は、二十五トン位です。でき上がったら、日本で二番目かな。一番でつかいの森繁さんのヨットですから。

足立 いつ頃から出かけたいというおつもりですか？



鹿島郁夫氏

鹿島 どここの海でも魅力ありますけれど、南太平洋がいいですね。

その他ですと、西インド諸島、カリブ海ですね。海が非常にきれいですよ。水面から下をのぞくと、十

分くらい二十分くらいまで見えますね。人が入っていくと、小さくなっていくのが、上から見えますものね。それに海の色がちがいます。

足立 どんな色ですか？

鹿島 コバルト色ですよ。

足立 もぐっていく場合に魅せられるのは、色ですか、それとも魚とか……。

鹿島 海中に潜ると、サンゴがあって、いろんな魚が泳いでますよ。特に熱帯地方の魚というのは、原色で色彩がとてもきれいです。

やはり夢の世界です。別世界です。

足立 未知の世界に対する学術的な興味というより、むしろ美学的な、唯美的な興味が中心といった風ですね、その場合。

鹿島 それもあります。しかし何かしら魅力がありますね。

足立 それから、自分の限界をためすという気持ちもありますか？

鹿島 今のところ、潜水ではありませんけど、もっと若い時分でしたら、何分もぐれるかという記録もあるでしょうけどね。これは肉体的条件が加わってきますから。

足立 そんなですよ。私たちが

鹿島 来年の夏に船を浮かして、日本近海でテスト航海と、水中でもぐるための機材を開発しておりますから、その機材のテストと改良を重ねるということになりますけれど、だいたい来年の十一月頃になると思いますね。

足立 今度は期間はどの位ですか鹿島 まあ、二年ですね。ぼくと

しては三年位ほしいんですけど、三年も家をあげると、いろいろ障害がでくるので、しやうがありませんわ(笑)

☆未知の世界を探りたいノ

足立 海底のどこに興味があるわけですか？

鹿島 結局、未知の世界ですからね。海底のことは何も知らないのだから、どこに入ってもおもしろいと思います。専門的には、いろいろあると思いますけど。

足立 やっぱり、未知の世界を探りたい？これが一種の本能みたいになってるんじゃないですか？鹿島さんの場合。

鹿島 しかし、誰でもみんな、未知の世界に対する興味はあると思いますけれどね。ただそれができるかできないかの問題で、だから、ぼくは、それができない人のために写真を撮ってきてあげたい。

足立 今、一番もぐりたいと思う海はどこですか？





足立巻一氏

勇気を与えられるのは。若い人が  
どんどんやるのなら、これはまあ  
若さと体力でいうことですけど  
鹿島さんの場合、中年にさしかか  
って、自分の条件を考えてコント  
ロールして、知的にしかも片一方  
で芸術的な未知の魅力も失わず、  
やっておられるということに、ぼ  
くなんか、非常に興味ができた  
わけです。

☆いやー、もうコリゴリですわ

足立 航海中楽しかったことは、  
たくさんありましたか？

鹿島 あんまりないですね。苦し  
いことの方が多いですよ。足立  
これはうれしかった／とい

うようなことはないですか？

鹿島 あんまりないですね(笑)

足立 シケの場合には、かなりの  
予想がつくんでしょ？

鹿島 ええ、シケの時は、何らか  
の徴候がありますし、このシケが  
おさまるだろうということも何ら  
かの前ぶれで分ります。ですから  
シケに対する恐怖感がありますけ  
ど、シケがあるのはあたり前のこ  
とですから、そうでもないです。  
ただ今度の場合、船が小さくて、  
積んでいる食糧や水が少なかつた  
ので、それに対する苦しさという  
のはありましたね。結局、そうい  
う欲望に対する闘いですよ。食糧  
がない、水がないというわけ

で、それと毎日、闘っているわけ  
です。

足立 長い日数ですからね。

鹿島 何しろ九キロやせましたか  
らね、一〇〇日です。すごく苦し  
かったですよ。

足立 でも、日が経つてくると、  
その苦しかったことが、楽しいも  
のに変ってくるんじゃないですか  
鹿島 いやいや、もうコリゴリだ  
という気持ですわ(大笑)

足立 そうですか？それでもまた  
行くんじゃないですか？(笑)

鹿島 今度は条件がちがいますの  
で、船も大きいし、食糧もたくさ  
んつめる。ただ人間が多くなりま  
すから、人間関係の問題がはいっ  
てきますけれどね。

☆人間の本能は食欲が一番

足立 船の上で、よくビフテキと  
奥さんのことを思ったと週刊紙な  
どには書いてありましたけど、そ  
んな心境になるものですか？

鹿島 そりゃ、なりますね、まず  
一番よく考えたのは、食うことで  
すよ。何か食いたい、うまいもん  
食いたい。はじめはうまいもので  
すけど、だんだんおちてきて、何  
でもいいから、腹いっぱい食いた  
い(爆笑)と思いますね。

足立 それから家族のことは？

鹿島 何かある時には思い出しま  
すけど、そう長い時間は思い出し

ませんね、瞬間的ですね。

足立 そうすると、人間の本能で一番強いのは、食欲ということですね。

鹿島 そうですね。それがなかったら生きてゆけないもんですから

足立 戦争に行った人の話ですと何が一番つらかったって、食い気と闘うことですよ、色気なんか問題じゃないといえますよね（笑）

鹿島 そりゃ、そうですね。まず食って寝て、それからが、人間の世界じゃないですか。

足立 寝る方は、ヨットの楽にねむれるわけですか？

鹿島 イヤ、寝れないですね。一人ですら、島に入った場合なんか起きておく必要がありますからね。覚醒剤をのんだり、睡眠薬をのんで寝ダメをしておいたり、そういうことをしますね。夜間は起きてます。他の船にぶつけられる心配がありますからね。二人であれば交代でできますけど。

足立 ウツラウツラの連続ですか鹿島 あまり寝ないですね。十時間も続けてねたことはいんじやないですかね。普通は二時間寝て起きて、まわりを見て、何もないとまた寝るというのくり返しですよ。

足立 すると、やっぱり人間一人で暮らすということが、いかに難かしいかということですね。

## ☆エンヤール号とコーラサ号

足立 それから、あの「コーラサ」という名前が気に入ってるんですけど、誰がつけたんですか

鹿島 自分でつけたんです。

足立 どういうところから発想されたんですか？

鹿島 もっとスマートな名前をつけようと思ったんですけど。

足立 スマートでないところが、ええとこですよ（笑）

鹿島 いろいろ考えてもピッタリする名前がないので、名前もつけずに進水したんですけど、九州一周した時、感じたんですが、これはどうもスマートな名前をつけるような船ではない。とくに太平洋を横断すると、こっちがかけ声をかけてやらないとどうにもしようがないんじゃないか。こっちが首頭をとりながら走らなくちゃならない。それならいっそのこと「こらさ」にしてやろう。（笑）

コーラサにするかコーラサにするか迷ったんですけど、コーラサじゃあまりにどうも（笑）それで、よしじゃあ、「コーラサ」にしてやれと思って名づけたわけです。それと名前がもう一つあるんですよ。

今度つくる船は大きな船ですの上陸用のポートをつむんでですけどその船の名前が「エンヤール号」なんです。下の本船が「コーラサ号」

「で、「エンヤール、コーラサ、エンヤコーラサ」（爆笑）というわけです。

## ☆冒険と恋と読書

足立 ハムスターをつれていかれましたね、あれは、やはり何もないとさびしいからですか？

鹿島 いえ、はじめは考えていませんでしたが、アメリカのアマチュアの無線の友達がつんでいけというわけで。それと気に入ったのは女の子だったので（笑）女性ならつれていこうかというわけ（笑）

足立 やはり女性だからね。私の考えでは旅行、その中でも極端な場合は冒険ですけど、その場合に、旅行と恋愛と本を読むことは、だいたい同じようなことじゃないかと思うんですけど、いかがですか？

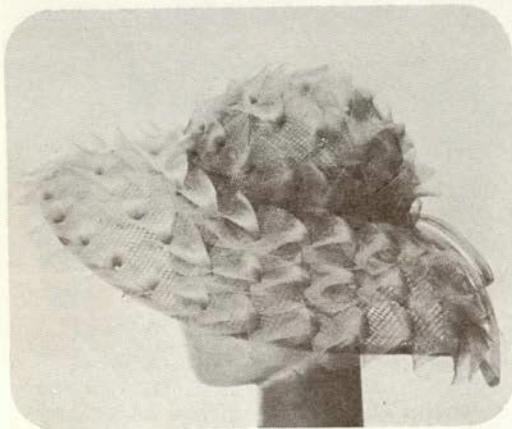
鹿島 ウーン、そうですね。旅行と恋愛と読書ね。

足立 旅行もね、やっぱり未知のものに対する空間的な探険でしょ鹿島 まあ少し、話の飛躍はあるかもしれないですけど、本質的にはつながるかも分らんですね。

足立 それをつなぎたいと僕は思ってますけど。読書は時間的なもので、未知の世界を旅行することですよ。それから人間の生活、人間の世界っていうのは、やはり男



秋のオシャレに  
優雅さをそえる  
マキシンの帽子



マキシンの帽子のおもとは  
全国有名百貨店でどうぞ

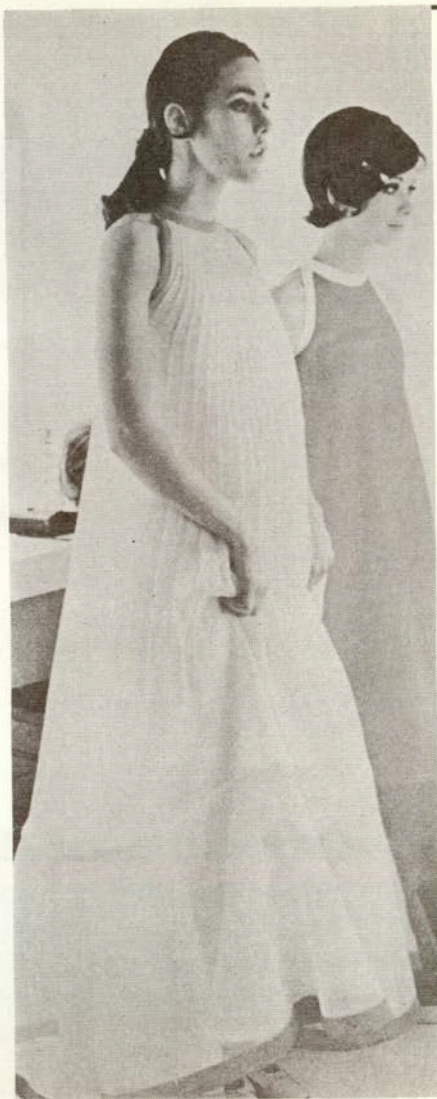
**マキシ**

神戸・トアロード 東京・銀座3-2

TEL (078) 33-6711-3 TEL (03) 535-5041

神戸っ子のセンスを生かす  
\*服飾 **KEI** の店

生田区三宮町三丁目五七  
大丸前服部宝生眼鏡店二階  
TEL 三三・七五五〇



## \*花隈だより

### りん子さん

①あなたの特技は……。

日本舞踊です。花柳流で6年間習いました。清元・茶道・鳴物・自動車運転。

②お酒は強い方ですか？

おつきあい程度でブランデーか水割。  
〈ブランデーは1本あけますか？〉〈まあ〉  
(ニヤニヤ)

③あなたのお好きな男性のタイプは？

あんまりハンサムな人はいやですね。  
背が高くてとっても明朗な人。

④古紋の献立の中で一番好きなものは？

お豆腐の天ぷらとあゆ

⑤休みの日には何をしていますか？

音楽を聞いてポケット本を読んでいます。

⑥今どんな本を読んでいますか？

推理小説。

⑦音楽は？

ポピュラー。

⑧今もし100万円もらったら……？

まっ白な家具を買物します。

割 烹

古 紋

神戸市生田区花隈町45

でんわ ③4 0 2 4 0

営業時間 P.M. 5:00~A.M. 1:00  
気軽なカウンターで日本料理をどうぞ





女だと思ふし、恋愛みたいなものが基調になっていると思うんですけど、どうですか？ハムスターが女性だというの思いついたんですけれど（笑）やっぱり女性っていうのは必要でしょ？

鹿島 そりゃそうですよ。女性をぬいてものごとは考えられないですよ（笑）

### ☆冒險心を育てた神戸の海と山

足立 冒險ということとは、子供の時から好きだったんですか？

鹿島 まあ、子供の頃からよく海に出ておりましたね。灘に住んでおりましたから、海が近かったので、よく泳いでました。

足立 海が好きだったわけ？

鹿島 ええ、好きでした。冒險的なことが好きでしたね、海があって、裏には山があった。探險隊ごっこなんかしてよく遊びましたそんな環境で育ちましたからね。そういう意味では、純粋な神戸っ子です。

足立 その場合にお父さんとかお兄さんとかで、そういう面にかりたてる要素があったわけですか？

鹿島 私の家庭の雰囲気では、そんなものはなかったですけど、母方の親せきは、みんな船乗りなんです。それが直接、関係があるとは思いませんけど。

足立 兄弟は？

鹿島 妹だけです。

足立 じゃあ、長男で大事に育てられたわけですね、どこそこについてはいけなやか。

鹿島 いや、その点、ぼくは、悪かってね。近所の鼻つまみもんで、みんなにきらわれてましたよ（笑）

足立 お父さんは何をしておられるんですか？

鹿島 父は小学校三年の時に死にました。妹とだけですから、好き勝手なことをしておりました。

足立 じゃあ、お母さんは、ずいぶん苦労されたわけですね。

鹿島 今でも親不孝もので（笑）

足立 しかしよいお母さんですな

鹿島 うちの母も理解してくれておりますけれどね。理解してくれているのか、理解させたのか（笑）分りませんね（笑）最近ではかなり僕がスタートした五、六年前とは考え方が変わってきてます。

### ☆女性の力は偉大

足立 それと奥さんの理解をどうして得たかということですが。

鹿島 長い間の準備期間に、教育しました（笑）出発する前から、今度の航海から帰ってくれば、こういう計画があるんだと予告してありますので別にどうってことないですよ。

足立 いっしょになられる時、こ

ういう計画があるんだとお話になったんですか？

鹿島 いや、それは……（笑）その頃は、まだ形としてはっきりまとまっていなかったし、漠然としたものだったですからね。

足立 いやいよやるんだという時に、奥さんは何といわれました？

鹿島 その時は、すぐ近くで、日本近海だったので、魚つりにいくみたいなもので気軽でした。それがだんだん距離が延びてきて、一日が二日になり、一週間になり、ひと月という風に、自然に延びていったわけです。だから案外、抵抗はなかったですよ。

足立 しかし、やっぱり太平洋になると……

鹿島 はっきり正面だつては反対しなかったけれど、気持の上では心配したでしょうね。どうにかいってみたら、自信はあるにしても、危険がありますからね。99%確信もっていても、1%の危険の可能性はありますからね、安心はできませんよ。

足立 やはり、人間の本能として女性というのは、農民的ですな、土地に執着する。男というのは狩をしていた昔から、外にでていくものです。そういうのが、男と女の本性のちがいがみいたいものですね。ところで奥さんとかけおちしたという話を耳にしました

が、あれは本当ですか？もちろん恋愛結婚でしょ？

鹿島 そうですね。(笑)

足立 今の奥さんは、非常に気に入っておられるわけですか？

鹿島 理想というのは完ペキです

から、それはあり得ないですよ。

足立 どういうところを気に入っておられるわけですか？

鹿島 まあ、何でもいうことをきいてくれることじゃないですか(笑) こうして七年間もヨットに乗

ってですけど、僕のもっているエゴイズムを通してくれますからね足立 夢を育てることに託しているということとは、大事ですね。あなたもちがった女性といっしょになったら、またちがつてきてるかも分りませんよ。女性の力は偉大だから(爆笑)

☆日本を脱出すれば六割成功

足立 ヨットでも何でも、やはり先立つものは金でしょ？これを捻出するのに、ずい分苦労されたのでは？

鹿島 だいたいこういうものはね日本を無事できればまず六割成功です。太平洋の横断も、ぼくはアメリカに積み出しましたけど、他の船について日本を出れば、まず太平洋を六割横断したのも同じですよ。金があつたらなくて、計画の段階でつぶれてしまいますよ。金

があつたれば、だいたい半分位成功したも同じですね。あとは必要なものを買って準備すればいいわけですから。それで日本を出る。するともう六割成功です。

足立 その場合に、神戸の人たちは応援してくれましたか？

鹿島 神戸の人とは限りませんけど、やはりよく身近かな人たちですから、神戸っ子が多いですね

足立 資金あつめということとは、なかなかシンディことでしょ？

鹿島 まあ、太平洋を横断するより、資金あつめの方がシンディですね(笑)

足立 やはり情熱でくどくわけですか？

鹿島 結局、それは体験を積み重ねていく上で、ある程度の信用をふやしていく。それと情熱ですよね。やりたいという意志がはっきりしておれば、あいつはあれだけの体験があるし、あいつだったらやれるんじゃないかと、応援してくれる人もでてるんじゃないですかね。

足立 今回、横断するのに、どれ位に目標をおかれたんですか？

鹿島 百八〇万円です。

足立 ヨットを造ったりする費用もいれてですか？

鹿島 ええ、全部含めてですから案外安いですよ。

足立 今度は世界一周ですけれど

鹿島 一千五百万円位です。

足立 その間の奥さんの生活費は入ってるんですか？

鹿島 今度は五カ月いなかったの

で、二十五万円位ですね。

足立 ああ、そうですね。それにしても一八〇万円で太平洋横断とは、割合、安いですね。

鹿島 それは、ぼくのアイデアでヨットを小さくして、費用をきりつめたわけですよ。もつとヨットを大きくすれば、三〇〇万円位かかります。そこらが苦しいところで、一〇〇万円節約したことになります。そのために食糧がみつめなくて、ぼくは九キロやせました(笑) 一キロ、十万円です(爆笑)

☆自転車日本一周と

ヨット世界貧乏旅行

足立 ヨットに乗られたのは、何年ごろからですか？

鹿島 ぼくはスタートが遅いんです。本格的に乗り出したのは、十二、三年前位です。

足立 最初に海と山のある神戸に育ち、それが、どういう形でヨットと結びつのですか？

鹿島 その過程は複雑でしてね。何か冒険的なことをやりたいと思ってたんですよ。サイクリングなんかもやりました。終戦直後ですけどね。自転車で日本一周をしてやろうと計画しましたが、その



頃は食糧事情が悪くてね、とうていできない。それから、オートバイに熱中したりね。それが何かの機会に海と結びついたんですけど足立 ある日突然に？どうもそのつながり方がよくわからないんですが……。

鹿島 それは未知の世界とか、冒險的なもののつながりですよ。

足立 型としては、終戦直後は、サイクリング、次は何だった？

鹿島 次はオートバイで世界一周でしたが、結局ガソリンが高かったり、その時に車がなかったりで、ついに実らずに終わってしまっただけです。次は自動車です。

足立 これは何でアカなんだのですか？

鹿島 その頃、ちょうど、朝日新聞の辻さんがロンドン—東京をやったわけですよ。それで、バカらしくなって、それに、自動車事故で、脳内出血する大ケガをしましたのでやめてしまったわけです。その頃から、ヨットを平行してやっていたわけです。車は、すごく金がかかる、運搬賃とか、ガソリン代とか修繕代とか高くつくわけですよ。その時分から、ヨットに目をつけて、世界一周を考えておりましたからね。まず燃料代がかからない、そこにもつてきて、ホテル代がタダだし、食料品もいっぱいつみこんでいける。まあ、動く家

ですよ。それで非常に魅力を感じましてね。ところがヨットは高かったです。大型ヨットだと、二、三百万かかる。これでは、ちょっといけない、少し躊躇しておったんですけれど、車がダメだと決定しましたから、ヨットに力を入れました。それでまず、安いヨットをつくる方法を考えました。

足立 ああ、なるほどね。

鹿島 いろいろ調べていくと、ベニヤ板でもできるのが分って、これはいいと、それから、だんだん長さを縮めていって、これでも走れると、スペースをきりつめていって、ギリギリの線があればです。設計する時に、論争したり、反対されたり、抵抗もありましたが。

足立 すると、ある意味では、貧乏旅行みたいなもんですな。

鹿島 そうですね、金がないために、いろいろアイディアがでてくるわけですから。

足立 その点、案外理解されてないんじゃないですかね。ヨットというイメージからいうと、金持の道楽で、ずいぶん金がかかるというイメージがありますけど。

鹿島 今、"コラーサ号の冒険"という題名で本を書いているんですけど、その辺のことを詳しく書くつもりです。

足立 神戸が背景になるでしょう  
鹿島 やはり、神戸はぼくの夢を

育ててくれた土地ですから。

☆あらゆる人生体験を結集して

足立 その頃は、仕事の合間にやっておられたんですか？

鹿島 そうですね、その時分は、

水道筋三丁目の商店街で写真の材料店をしておりました。案外時間はあったんで、ヨットに乗っておいりましたけど、あんまり遊ぶので、店が倒産してしまいましたけど（爆笑）かんじんの経営者がいなくて、他人まかせのものだから、それに金をどんどん使えばっかりで……（笑）

足立 戦争の頃は、まだ子供で？

鹿島 そうです。

足立 中学はどこでした？

鹿島 北神商業なんです、鈴蘭台のね。勉強がきらいで、何とかして勉強しなくてすむようにと（笑）でも戦争中ですから、あまりしなかったですけれどね。

足立 勤労動員なんかは？

鹿島 ぼくは無縁ができますので特別に東芝の工場に行きました。足立 そんなものが、今度の場合にも役立ってるんですな。

鹿島 それから、かなり長い間電氣関係の仕事もしてましたから。それでラジオもみんなは反対しましたけれど、積んだわけです。小さなヨットで、小さなラジオですからまず電波は届かないだろうとい

う意見が多かったんですけど、ぼくは9割まではダメでも1割の可能性があれば、やってみるんですよ。やってみるとうまくいきましてね。足立 そうすると、今までの人生体験がすべて集められたという感じがしますね。

鹿島 ヨットの場合、いろんな科学の集結ですから、一人で行くとなると、ある程度の医学の知識や気象学も必要ですし、その他船の構造や力学的なことも必要です。いろいろな知識が必要ですよ。それからヨットの動かし方も必要だし、ぼくは造船の方も、船の設計も好きですから、自分で勉強しましたけれどね。

足立 職業としては、写真材料店のほかに？

鹿島 アルバイト的な仕事が多いですからね。長い間やったのとしては、写真材料店と電気の仕事ですね。ラジオなんか子供の頃鉱石ラジオをつくったりしてましたから。

足立 そんなことが全部、役に立っておりますね。

☆引金を引くまでの緊張感

足立 スポーツは何を？

鹿島 射撃をずっと長いことやっております。

足立 ほうノ射撃ですか？

鹿島 ライフル射撃です。

足立 どういうわけで、ライフル銃なんか好きなんですか？カンの養成という点では、ライフルとヨットというのはどうですか？

鹿島 カンでは結びつかないですけど、船酔いと射撃はつながります。射撃の上手下手はある程度、体質的なもので、三半規管の働きのなんです。射撃の場合、こうして撃ちますからね、(射つ格好をする)銃のバラスンということがあるわけで、それは三半規管のバラスンできまりますからね三半規管の敏感な人は、船酔いしないですよ。

足立 射撃の要素としては、冷静さとバランス神経と眼ですね。

鹿島 ぼくが射撃が好きなのは、標的をねらっておりますね、ああいう時間が好きなんです。緊張感ね、引金を引くまでの時間ですよ。そして引いた時、バーンと音がする。あの豪快さ、その緊張とそれから解放された時の気持ですね。

足立 ヨットで航海している間には標的をねらっていたわけで、バンと音がした時は神戸についていたというわけですね(笑)射撃と似たようなもんだなあ。

鹿島 何やデッカイ射撃ですね(笑)ミサイルみたいなもんですね

足立 じゃ、今は解放されて、一番気分がいいときですね(笑)

☆ぼくはロマンティストですよ

足立 浮気心というのは起りませんか？

鹿島 そりゃ、いつでもおこりますよ(笑)僕はいつでも海に出れば、生と死の間に立つてるんですよ。平気で走っているんですよ。陸に上がると、何か解放感を求める。

それが浮気心じゃないですか(笑)足立 奥さんをだいぶ泣かせてるんじゃないですか？

鹿島 昔の船乗りが、"港々に女あり"といっていましたけど、あの気持が分りますね(笑)

足立 未知なるものを求めるとか夢があるとか、そういうところ、やはり男性的のロマンティストかな鹿島 僕は、ロマンティストですよ。

足立 それと同時に、一べん目にものをみせてやろうとか、してやろうとかいった反骨精神はなかったですか？

鹿島 そういうことは、あまりないですね、ぼくの場合は、ロマンティストで、子供の時分にもつてた夢をね、今まで追いつけてきたという方が強いですね。

☆可能性の限界を広げる

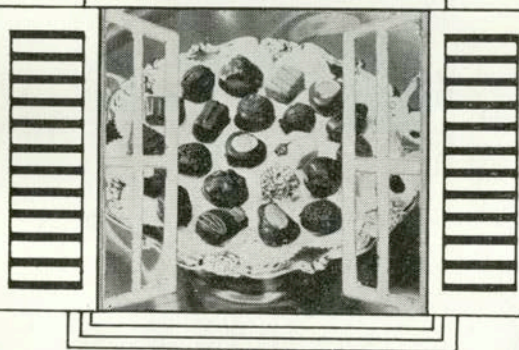
足立 読書なんかは？

鹿島 ノンフィクションが好きですね。海の関係のものとか、秘境ものなんか好きですね。





FANCY CHOCOLATE



チョコレート＊キャンディ

**ゴンチャロフ**

神戸市生田区加納町4の1

直売店

さんちかスイーツタウン／大丸  
そごう／三越／阪急／各百貨店

ハイセンスなめがね……  
おちついたおしゃれ  
それは神戸眼鏡院の  
ワールドフレームで  
おたのしみ下さい



おしゃれめがねの……

**神戸眼鏡院**

元町店・元町3丁目 ☎③21212～3

三宮店・さんちかタウン ☎③1874～5





★田中千代学園創立35周年記念のステージから

## “今日に生きる”田中千代のモード

「皇后さまのデザイナー」という田中千代さんには強いイメージがあります。

神戸っ子とてのもう一つのイメージは、「神戸が育てた世界的なデザイナー」という親しみ深さでしょう。それは先頃、本誌に寄稿された随想のなかでも「神戸は、私の第二のふるさとでもいいでしょうか、仕事の誕生地です。そして私の仕事を今まで育ててくれた温かいゆりかごでもあったわけで、神戸という言葉聞いただけで自分の仕事の赤ちゃん時代、幼稚園、小学校と、その年輪が頭の中に浮かんできるとなつかしく思われます。」と服飾界への出発点が神戸であったこと、仕事が大人になっていったのも神戸であったと、ふるさとへの愛情をこめて書かれていました。

七月八日。田中千代学園三十五周年記念の田中千代作品一九六七「江戸からSPASSE AGEへ」というファッション・ショーが大阪フェスティバルホールで開かれ

ました。三十五年間に蓄積されたモードへの感覚が、一時間ほどの短時間に楽しく、花やかに、さわやかにまとめあげたられ舞台は、世界的な田中千代さんの力量とあらためて感嘆したのです。

スタッフは、演出に鴨居玲氏、照明・上地一夫氏、音響効果・沢田春夫氏という方々が担当して、大変モダンな、シャープな構成でした。いわゆる総花的なファッション・ショーの花道をあるく舞台形式のものではなく、モデルをモダン・ミュージカル・ショーとして、すべてのシーンが、静と動の音と色と光りのある絵に処理されています。

また、装置も簡潔な、濃淡グレイの抽象的な装置で、床をデザインしてあるのがフレッシュ。舞台にひろがり立体感がみられました。

田中千代さん自身が、きもの姿で解説されるのも面白い、スラリとした品の良い姿、柔らかな微笑みとユーモアを織り込んだ語りかけはさすがです。

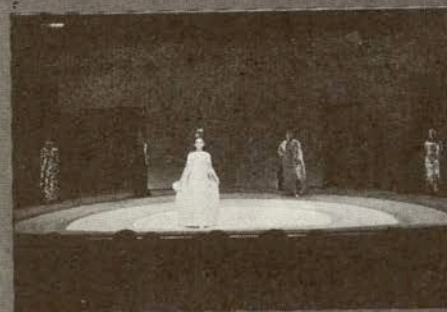
「私も三十五年、モードの世界に生きてまいりましたが世界中も、日本も変わってきました。私たちは、今日に生きています。今日に生きるということは、今日をモードのなかに生かすこと。このステージをご覧になって『ああ今日だな』と感



今度は遊びましたと田中千代さん



田中千代作品 1967のステージ



じていただければと思います。伝統を江戸からしぼって二〇〇年のへだたりのある素材に新しい現代のいぶきを吹きかけて、今日のなかに生かすこと。また、現代は新しいメタリックな素材の可能性をいろいろ試してみたいと思いました。おしやれば昔から今日も、これからも、いつまでたっても女の人のある限り存在することでしょう」と、女の「美しさへの限らない貧欲」と現代の多様性の入りまじった日本のモードの可能性を話されたのが印象的でした。

プログラムは現代をテーマの「黒白メタリック」の舞台では、アルミ、エナメルなどの現代の非情さを、黒白の円と直線を生かした若いエネルギーなデザイン。江戸時代の宗達や光琳の絵を現代に生かした格子やあやめ・梅・竹・波などのデザインには、日本人のきものの中に季節を楽しむ風情や、風景を愛でる歌人の繊細な感覚、花ずれの情緒などが生かしてあります。「カラーフアンタジー」ではメキシカンルック。「ルミエール」ではファイバーオブティクによる世界で初めてといわれる、光のドレス・光線のドレス。を実験してみせますし、ペーパードレスのカラフルな楽しさ、吉原つなぎや、かまわぬ、ひょうたんなど江戸庶民のユーモラスなタッチをバ

ンタロンスタイルで表現するとたちまち現代に生まれる服になるのです。そして、デザインの魔術を働ぎれよ、軽やかなリズムの中で次々にくりひろげました。「三十五年もマジメにやって来たんだから遊んでもいいでしょう」と幕間のロビーで教え子にとりかこまれていらっしやる田中千代さんはますますお若い。

「現代はいろんな矛盾にぶつかるときでしょう。網ずれの音が、アルミ泊ずれの音にかわってきた機械文明の時代です。でも機械につかわれてはつまりません。昔は柄も一柄一柄がきれいで、一人一人が廊下を歩いていたのですよ。現代はマスできれいで、ラッシュのなかを何十人何百人が歩いているんです。また西洋と東洋がごっちゃになった日本人は、それぞれに、ぶつかったなかで自分の正しい道を掴んでいかなくてはいけないんですね」伝統を今日に生かし、機械文明に挑戦してゆかねばならない現代の複雑さ、この時点でカチンとシャッターを合わせた田中千代さんのモードの世界は、やはり神戸という町が持った港町の国際的な多様性のなかでいち早く身につけ育った現代感覚が、世界的なスケールを持つデザインーとして、磨き抜かれて行ったということではないでしょうか。

# 神戸遊戯誌 48

## ☆よみがえらせたいたいボート隆盛の夢

「オール持つ手に花が散る」とか「オール持つ手にホタル飛ぶ」とかいって歌が作られたのは大正初期だが、今日ではそんなロマン調よりも勝敗と記録がなんといつても最高の念願となっている。戦前学校クルーで強かつ



昭和11年関西選手権で優勝した当時の実業団チームの雄、  
国鉄鷹取工場チーム

たのは兵庫県下では神戸商大、御影師範、洲本中などだったが、戦後は相生産業、柳高校、洲本高校などが強味をみせている。実業団では関西選手権で国鉄鷹取工機部がずっと優勝をつづけたし、昭和十七年に明治神宮の全日本大会で優勝したほどだが、戦後は播磨造船がぬきん出て強く、全日本実業団選手権大会の固定席艇の部で昭

ボート ②

青木重雄



和二十六年から二十九年まで連続四連勝、さらに三十二年にも覇権を握っている。

終戦直後いっとき神戸一中(現神戸高校)クルーが活躍したが、二十四、五年ごろ兵庫県下ではじめて開かれた全日本高校選手権大会のナックル・フォアの部(高松―淡路・由良間レース)に出場して気を吐いた。また、大学はダメで国体で甲南大学が一回三位にはいった程度で、総体にパツとしない。ただし大学同士でいろいろな対抗レースが催されるようになったが、関学大・関大対抗レース(大阪・桜の宮附近の川)、甲南大対学習院(瀬田川)、関学対神戸商大、神戸商大対大阪商大などといずれもエイトである。ところで、兵庫県漕艇協会(現事務所須磨高校内)が昭和二十年春に、神戸市漕艇連盟が三十二年にそれぞれ創設されたが、今日まで連絡事務と共に地方クルーの育成と指導に努力を傾けている。

さて、最近の現状だが、高校ではやはり柳高校(なお、同校には県下唯一の女子クルーがある)や神戸高校が代表チームで近畿でも強い。全国でのAクラスは北海道、東北、滋賀県、愛媛、鳥取、島根などだが、昔強かった東京の諸クルーはダメである。社会人クルーでは相生の播磨造船が出色であることは前に書いたとおりだが、神戸市には常時クルーがないといった寂しさである。伝統の国鉄鷹取工機部はポート・ハウスが得られないなどの理由で昔の面影はないし、神戸市役所チームも完全にタルんでしまっている。全国の強クルーといえは東洋レーヨン(滋賀県、エイト)、トヨタ自動車(愛知県、ナックル・フォア)、古河電工(東京)、東京トヨタ(エイト)、大阪大丸(エイト、舵手付きフォア)などである。大学となると実業団以上に不指でわずかに関学OBが昭和三十年の全日本社会人選手権で優勝したのがめだつ程度である。このように、高校、大学、実業団、社会人を通じてよいクルーが生まれないのはいろいろな理由があるが、なんといっても各学校、各職場ともいまいひとつポートに熱意を持っていないことが最大の理由と

いえよう。ことに職場の場合、県下の大、中企業が、戦前の川崎造船所や三菱造船所ほどポートはもちろん他のスポーツについても関心を払っていないことが挙げられる。有名選手を会社に入れて社名PRの一助にしようとした昔の風習は、ほんの一部の会社工場を除いて、神戸市および県下ではほとんど忘れられたようである。その現われが会社のスポーツ予算の貧困化となり、ポートでいえば艇庫の不設備その他といった消極策となり、従って有名選手は集まらないという因果論につながってゆくわけである。だが、兵庫県は南は瀬戸内海、北は日本海と向かい合う、わが国有数の大臨海県である。「われは海の子白波の……」の小学唱歌の一節ではないが、ヨットと同時にま少しポートの隆盛に資する諸対策が地元の関係者の手で練られてもよいのではないかと、ここで願っておこう。

いま一度、戦後からの神戸の「ポート裏ばなし」といったものを拾ってみよう。終戦後いち早く神戸商船大が自校でカッター試合を行って復活のきざしをみせたが、国鉄鷹取工機部も須磨海岸で模範試合を行なって一般の観覧に供した。また、二人乗り、三人乗りのお椀ポートをあやつって、ポートへの夢を晴らしたポート・ファンとあった。戦後間もなくみなと祭におけるポート・レースが復活したが、当時はよい選手の数が少なかったため、学生や社会人チームが須磨の漁師のたくましかったいちゃん連中の漕ぐポートによくしてやられたものである。また、かつて三菱造船所に村田信氏という京大クルーのOB選手がいたが、この人は昔とったキノヅカで昭和三十年ごろからポートに非常な熱情をみせ、ついにみなと祭の「市氏レガッタ」にみずからも出場したほどだった。その他いろいろな面でも県下ポート界のために尽したが、こういう理解者を今後でも得たいものと、神戸市漕艇連盟では語っている。

淑女入門 9

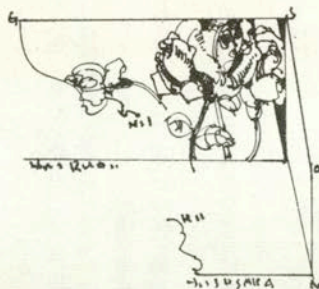
How to be a Lady

# 食欲淑女

文——名村喜久江  
え——石阪 春生

「大根足の女って、魅力があるな。ぐっとくるぜ」  
あまり若くない、男性同僚の意見である。

彼のいい分はこうだ。ヒザ上何センチの短かいスカートから、すくとはみ出た大根足は、女の生命力と安定感と根性の象徴であり、しかもその大根足の上の方に、ほどよく肉のついた胴体と、たくましい腕と、からっぽでないおツムがついていれば最高だ、と。



この論法で  
いけば、近ごろ  
売れっ子の  
ツウイギー  
(小枝ちゃん)  
のような、や  
せっぽち女な  
ど、てんで問  
題にならない  
のだらう。肉

を省略して、  
骨の上に皮を

まとったようなガリガリ姿は、アダムのアバラの骨一本からつくられたイブを連想させ、吹けば飛ぶような、虚しさを感じさせる。

ところが当節は、れっきとした女性、分別も才覚もあるはずの人たちが、ツウイギーに追随して、やせよう、やせようと、悲しくもおかしい努力をつづけているのだから、ほんとに嘆かわしい。肥満は死につながる――

と、医者は警告をしているけれども、平均的ニッポン人の体重をもちながら、大根足が気にいらんとか、ウエストを蜂のようににしたいなど、ぜいたくをならべて、骨身をけずろうとするのは、ナンセンスな話だ。

この人たちは、ツマ揚子か、棒っ杭に近いほど優雅であり、装いがよく板につき、男性にモテる、と固く信じているらしいが、女性が考えるほど、男性は「やせっぽち礼賛者」ではないようである。

とすると、食べものはどんな食べ、飲みたいものはバカバカ飲み、その分だけ生命力の火を燃やして、ボルテージの高い女性になった方がよさそうだ。

少食な女は、見た目もスタミナがなく影がうすい。とかく消極的で、内向的で、悲観論者が多いことをみても淑女はまず、よく食べ、よく飲み、よく消化して、発洩とした生き方をするのが基礎条件である。

そこで、大いに食べることは大賛成であるが、淑女たるもの、やはり「食べ方の美学」に無神経であっては困る。

たとえば、食べるスピードである。ものを頂くとき、とかく女性に多いのは、ノロノロ型だ。

「なぜか食欲がなくなつて」

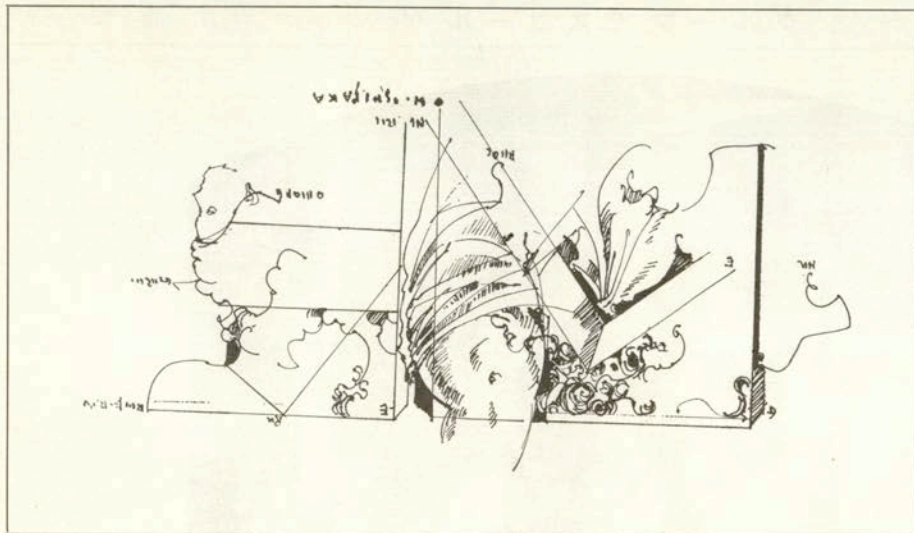
「やせるために涙をのんで」

などと、いいわけがましいセリフをつぶやきながら、ネチネチ、モソモソ、ノロノロ、イヤイヤの風情で、ほんのちよびり頂くタイプである。お皿の上をまぜちらし、器の中のをこねまわし、迷い箸やら移りフォーク、さぐりナイフといった合の手たつぷりに、ゆっくり、



ちよびちよび食べている。

こちらが食べ終わってフト顔をあげると、まだ半分以上をもてあましながら、冴えない顔をしている。こんな相手と食事をするのはいやはや、人災そのものだ。彼女が食べ終わるまで、ポカンと待つ身のつらさ、うらめしさ、格好わるさは、ほんとに想像以上のものといえよう。ふと、自分自身を。ガツガツと浅ましい食べさまででは



なかったかしら」と疑い、冷や汗をかいてしまうことさえある。食事の相手にこんな自己嫌悪を抱かせるようなノロノロ型は、淑女の風上におけない、と私は思う。

それに反して、もの食いのいい人というのは、見ていて実に快い。目の前に出されたものを、きれいさっぱり、楽しそうに平らげられると、人生が明るくなる。浮々する。

割り勘の場合はもちろんだが、もしオゴる場合なら、もの食いのいい相手に当るか、ネチネチ型に遭遇するかで、上下、えらいちがいである。気分が、味が、そして消化が！。

料理がうまいことは、淑女の資質の一つではあろうが、もっと大事なことは、それを味わうデリケートな舌であり、丈夫な胃袋であり、緩急その所を得た食べっぷりであろう。

昔、人間がまだ毛皮をまとい、洞穴に住んでいた頃には、ものを食べる姿を他人（または他の動物）に見られることを好まなかっただろう。食べる事に熱中していたら、後からポカン（またはガブリ）とやられるかもしれないし、うまいものを横どりされるかもしれないから。無防備は死につながる。

しかし、いまや人類は、ともに食べ、ともに飲むすることを、人生の歓びとして、社交の一つとして、人間交流の場として、芸術化することに成功している。キヨロキヨロ、コセコセ、ドキドキすることなく、ゆうゆうと健啖をきそい、話題を香辛料にして、人生の至福を味わうことが許されている。

だから女性も、少食イコール優雅、などとカンちがいがすることなく、カラッと陽気に、食い気をエンジョイすべきである。そして、ふつくらと豊富な、包容力に富み、堂々たる食欲の、大型淑女に育つべきなのである。

△次号は鴨居羊子さんです▽

神戸日石カルテックス  
発売所グループ



私たちの日石カルテックスは日本石油のスタンドのチェーンだが、全国で4300カ所ある。このなかで毎年、優良給油所のコンテストが開かれ、三宮SSは大阪支店管内の第1位、兵庫SSは4位に入賞した。この優勝祝いにいつも利用している。安くて、ビールがウンとのめるスカイサントリーで祝杯ということになった。"勝って兜の緒を締めよ"と心をひきしめてのむサントリーの"純生"は無性にうまい。料理のごひいきはボークシチューだ。若い人々が多い私たちのスタッフのいこいの場所でもある。

＜日本石油KK特約店・神戸日石カルテックス発売所 専務取締役 田中啓夫＞



サントリー・ラウンジ

飲みほうだい<サントリービール>+食べほうだい! <北欧風ヴァイキング料理> 1,000円<飲食税 100円別>



なごやかな  
ムード  
すばらしい  
眺望!

ビヤレストラン  
スカイサントリー

三宮交通センタービル9階 TEL ㉟ 3705~6